KANDA NISSHO MEMORIAL MUSEUM of ART　1995・11・30 発行

記念館だより

No. 3

神田日勝記念館
〒080-02
北海道河東郡鹿追町東町3丁目2
TEL(01566)6-1555

神田日勝
画室C　1967年　油彩・板　163.5×182.8

「画室C」は、記念館オープンより収蔵庫に保管されており、昨年の「馬（絶筆）」の修復に伴い初めて記念館に展示されました。その後4月より7月までの期間をかけて京都の修復者のもとで修復作業を終えました。この度、11月の展示替えにより、修復されてきれいになった姿で「画室A」「画室B」と並んで展示されています。

第一回蕪墾祭

開館記念日に『文芸とコーラスの夕べ』

神田日勝記念館が開館した六月十七日を記念して、神田日勝と記念館を愛するファンの集いの場として「開館記念祭」を計画したいという声が、一周年の頃から話題になっていました。

一周年の時は、来館者に『晴れた日の風景』を使用した帯広信用金庫のカレンダーを配布し、北海道電力の協力を得て十七日を挟んだ一週間、記念館のライトアップがなされました。

本年は早くから有志によって実行委員会が組織され、行事の内容が検討され、開館記念祭という名称も高橋館長により「蕪墾祭」(荒れた地を開墾するという意味)と命名されました。

旭川混成合唱団のコーラス

昨年同様北海道電力の協力で、同時期記念館のライトアップを行い、併せて北海道を代表する作家小檜山博氏と旭川混声合唱団による「文芸とコーラスの夕べ」が開催されました。小檜山博氏は滝上町の出身で、日勝と世代を共有するところから、記念館建設運動の頃から鹿追と関わりがあり、講演では『飯場の風景』や『死馬』さらに絶筆『馬』を通して、自身の原体験と日勝の世界とのかかわりを語りました。続いて記念館の展示室を会場に、第二展示室への階段をステージに見立てて合唱。宗教曲や合唱組曲が日勝の大作群に囲まれたドーム状の空間に流れ百人近い観衆を魅了しました。

エンディングは町民ホールロビーのワインパーティ。出演者も観衆も一体となり、テーブルスピーチを展開、旭川混声合唱団のアンコール演奏も行われました。

神田日勝の世界を語る

馬耕忌

神田日勝の命日に近い八月二十七日、その画業と人柄を偲ぶ第三回「馬耕忌」が、知人やファン等百人近くの参加を得て、鹿追町民ホールのミュージカルホールを会場に開催されました。

第一部は献花。黙禱の後、壇上の遺影に向かい白花を捧げ、故人を追想しました。今年は長男哲哉夫妻も愛息を連れて参加され、遺族を代表して挨拶を述べました。

第二部の「トーク&トーク」は恒例となった田中光俊氏のギター演奏で幕開け。今回は、釧路短期大学教授の鳥居省三氏をコーディネーター、加藤多一オホーツク文学館長(児童文学者)・釜沢恵子荒井記念美術館学芸員・菅訓章神田日勝記念館係長をパネリストという構成で展開されました。最初に「神田日勝」を原点としてとらえることに主眼をおき、各人が神田日勝の作品との出会いを語る運びとなりました。鳥居氏は「赤い魚」を日勝の絵の転換点としてとらえ、加藤館長は滝上出身の原体験に照らして『死馬』への深い思いを語り、また釜沢学芸員は十二歳の時、日勝作品と出会った強烈な印象を述べました。この後、一般参加者を含めて、日勝と記念館についての討議が続きました。締めくくりはギター演奏に併せ、河辺美佳さんが『野男のフォークロア』の一節を朗読しました。

トーク&トーク

第三部は記念館前庭でのジンギスカンを囲んでの交流会。二月、上田市の槐多忌での出会いが機縁となって遠く宇都宮から訪れた参加者もあり、馬耕忌に広がりをもたせてくれました。

第1回　馬の絵作品展

10月20日(金)～26日(木)
鹿追町民ホール／ストニィプレィンホール

馬を題材として多くの大作を残した神田日勝に因み、題材を馬に限定して行った第一回馬の絵作品展は予想を越える三三〇点もの応募がありました。

一堂に会した作品を前に、「僕の絵は？」と捜す子ども、他の子どもの作品に熱心に見入る子、「かわいいわ」と感動を思わず口にする親など、多くの人が思い思いの感想を持って観ていました。

子どもたちが確かに一生懸命に描いた絵から何かを感じ取ったのでしょう。帰途につく足も軽かったようです。

本作品展は学校教育外における制作発表の場として提供され、子どもたちの制作意欲を喚起するきっかけになること、また、特にテーマを設けることで一つの対象に注がれる子どもたちの個性豊かな「眼」を感じ取ろうとするものです。

今回は十勝管内と一部周辺の地域を対象に行いましたが、来年度はその枠を広げ、さらに多くの子どもたちに機会が与えられるよう継続、発展させていく予定です。

芸術鑑賞バスツアー

李王朝時代の刺繍と布展
北のトポス・四人の原風景展

10月8日(日)
北海道立近代美術館

町民の美術鑑賞の要望に応え、毎年開催されている「芸術鑑賞バスツアー」。今年は刺繍をテーマとした展覧会に合わせました。観覧前の担当学芸員の説明もあり、背景に流れる隣国・韓国の文化・伝統に触れ、美的にのみならず、思想的に広くとらえる機会となりました。

併せて行われていた常設展では、取り上げられた四作家に神田日勝も数えられており、親近感を持って見ることができたようです。北海道を代表する四作家の作品に感銘を受けるとともに、作家の眼が向けられた郷土、北海道の風土に共感を覚えたという声も聞かれました。

絵画教室――油絵講座

10月5・12・19・26日
鹿追町民ホール／工作室

今年の絵画教室―油絵講座は、講師に瓜幕中学校長であり、全道展等で活躍されている斉藤隆博先生を迎えて開かれました。

受講者の方々は、初心者から多少経験のある方、絵画サークル等で描いていた方と様々ですが、先生のそれぞれの個性を引き出そうという丁寧な指導のもと、熱心に作品の制作に取り組んでいたようです。出来上がった作品は、町民文化祭の作品展に出品し、成果を発表することとなりました。

もっと講座を開いてほしいという要望もあり、今後への意欲もみられました。

作品寄贈 展示替え

十一月八日、隣町、士幌町から神田日勝の油彩画寄贈の申し出を受け、記念館に収蔵されました。正確な年代等は不明ですが、小品の制作依頼が相次いだ一九六六～六九年頃と推定されます。旧蔵者によって「水辺の馬」と題されたこの作品でも、日勝が大作・小品の中で様々な形でテーマとした「馬」に視線が向けられ、構図・色彩などの点で「湿原の群馬」「風景」といった作品との共通した部分も見られます。

比較的小さな作品ですが、この一点が加わることで記念館のコレクションは一層、充実したものとなります。

水辺の馬
Horses by the stream
年代不明
油彩・板 37.6×45.1

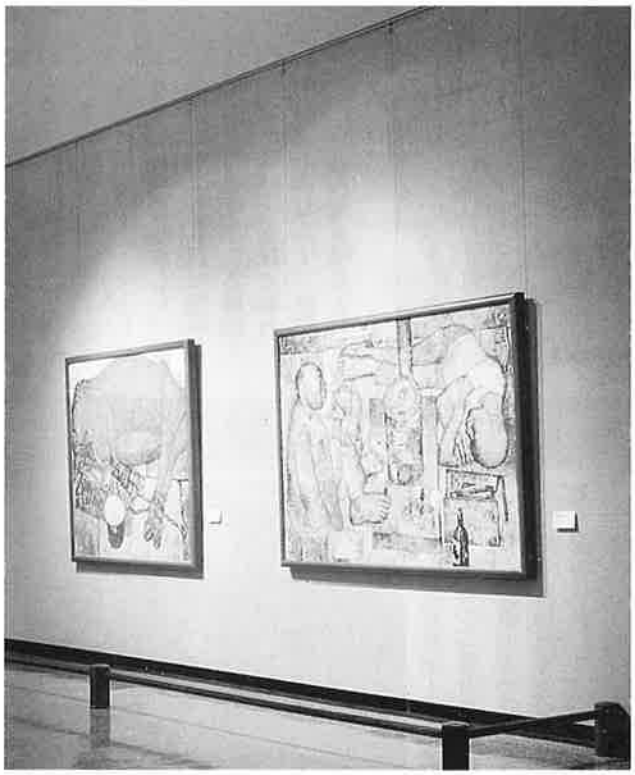
伴って開館以来、初の展示替えを行いました。今回は、神田日勝の特色の一つでもある激しく移り変わる画風を単位とし、年代順に展示することによって、その変遷を正しく見直す視点を定め、ときに連作となっている一つの画風の中に画家の画業の流れを展覧しています。

また二階展示室は、晩年、数多く描いた風景画を特集し、その画業の中では異色ともいえる世界を通して、神田日勝に触れていただこうとするものです。

展示ケース内の資料も特にテーマを設け「画家としての日勝」以外に、普段の生活の日勝の姿を紹介しています。

新出の油彩画二点、デッサン三点、新収蔵品を含めた今回の常設展で、神田日勝の新たな側面を見ることができるでしょう。

この常設展は来年四月まで展示します。来年は企画展を含め、二回の展示替えを予定しています。



感想ノートより……①

神田日勝記念館のオープン以来ロビーに置いた「感想ノート」は現在九冊目になっています。来館者の方々がそれぞれに鑑賞した印象を率直に書きつづってくれています。この書きつづられた思いの数々を館員のみならず、多くの方々に知っていただこうと今回の号より紹介の紙面をもうけました。

今後も多くのご意見、ご感想をお寄せいただき、館員の励みや刺激となり、さらなる記念館活動に役立てられることを期待します。

どうぞ記念館を訪れ、印象をつづって下さい。

'95. 5.4
1年半ぶりに 2度目。
やっぱり 彼の書いた絵には なんとも言えないパワーが感じられて
何度も 見たいと思ってしまいました。
天気も よいし、来てよかった。　　第3周町　そとざき

H.7.5.9
絶筆「馬」に会えて本当にうれしかった。
また 来ます。きっと 来ますから……　　札幌市　永倉

2回目です。馬ばかり見ていた 1回目
と、今日は 明るい絵も記憶に残り
何回来ても いいですね　　サクマ

6/5 毎回、北海道に 旅に、くると、ここに
よるのですが、なんか、みても、ふるさと
感覚が 湧り、又、感動します。日勝氏
の生き方、生に 感動します。しかし、大変
な作業。　　愛知　ヨキ

6/24 すごいきれいなえ
でしたまたみにきたいなo
1年生
とおいたかひろ（6才）

7/4. 馬の目を見ているうちになぜか涙が出て
来ました。又やってきて作ってあいに来たい。

7月26日
先日、日曜美術館にて紹介された日勝氏
の絵はすごく大切。遠く新聞から来ました
来て本当よかった。　　南平　はぬ作

毎日の生活、北海道の土の中から自然に
燃え上がる、エネルギー、それらが、作。
の中の、魂に訴かける。／思い出でなく
今の時間を感じる。／　　森岡 95/8

道立近代美術館にある「室内風景」は こちらには戻らないので
しかし 見たかった。です　　H. 7. 8. 6 佐藤

9th, August '95
「農家である、農民である」と言う彼の人間性を
強く感じとることが出来ました。自然体で生きる
ことのすばらしさを痛感します。大変すばらしい。
　　20才

8月7日
感動と胸一杯に帰りました。雨の中 探して
記念館から来たかいがありました。日勝氏通りの
この、二年の暮らしに、お物語を見せていただいて
ありがとう！ 心豊かに帰れそうです。

8月10日、あめ…
1年も前に新聞ではじめて、この人の
絵をみた。
強いタッチの 力ある絵として 受け
絵として 心にずっと残って
今日、又、この美術館に たどりつき、やっぱり
すごいな、思いました。
晴れた日も、雨の日も、にぴったりの
絵のタイプでしたね。　　北日部　但知町

印象

みんなは、いい絵だといっていたが 自分はやはりぐじしん
あまりいい絵とは感じなかった。やっぱり絵は、
見る人によって左右されるのだなとじっかん感しました
by 地球人

いつか来よう、と思い続けていたココに、やっと今日、来る事が
できました。　来たかい、ありました。　力強さとあったかさが感
じられて なんだか ホッとします。　また来ます。
95.9.22.　　紋別・R

ようやく 来る事ができました。
馬 …… です。　だが だが …… です。
又、会いに きます。
九州市　F、伊藤

1995. 9. 23. (土). PM 0:13.

感想

H7. 9. 24
心が弱くなったとき 何度も前向きになりたいと
願います。
心の中に感動が生まれると 人は 前へ進もうという気に
なれることを発見しました。
こんなに多くの人に 感動や、生きてく喜びを伝えられる絵を
書ける、それはきっと、ごまかしもかざりも 見栄もない心の
あらわれでしょう。
絵も下手で、大好きな ピアノも上手にはいけなくて、
話すことも苦手な私だけど、
出会えた人に 何かの形で、小さくても感動を
わたせたら …… と思います。
すてきな 日でした。　　大切な人と共に M

絵画芸術の花開く

主催・展覧会事業実行委員会
会場・鹿追町民ホール

古賀喜久男の世界　8月12日～18日

かつて鹿追に住み、線画を描いた画家の全貌を示す「世界」展

渡邉禎祥個展　8月24日～30日

神田日勝の画友で、教員生活退職後の水彩画を中心とした個展

徳丸滋展　4月28日～5月8日

神田日勝と交流のあった画家の倶知安町での画業の集大成

新出紀久雄の水彩画　7月28日～8月3日

『曹友』の表紙を描き、国際的に活躍する水彩画家の個展

熊代弘法造形展　10月5日～11日

鹿追出身の画家の、漂着物等を素材にした「優具シリーズ」展

入館者15万人達成

神田日勝記念館の入館者が八月二十二日、十五万人を達成、十五万人目となったのは絵を描くのが趣味という札幌の中学校教諭、工藤和弘さん。

ちょっとINFORMATION

テレホンカードにつづきポストカードも

神田日勝記念館の三種類目の記念テレカ「人間A」を六月より販売しています。

テレカ「人間A」千円

また、ポストカードは現在十二種類（作品八種、館全景他四種）を販売していますが、来館者より要望の多い風景画を含む作品四種を新たに作製中です。一月中旬頃より販売の予定です。

画集神田日勝刊行

十月二十日北海道新聞社より、「画集　神田日勝」が刊行されました。道立近代美術館と神田日勝記念館の協力で作られたこの画集は、油彩六十三点（カラーが五十点）、素描十六点を収録。日勝の著述文や写真、新たに編集した年譜も収載されていてボリュームたっぷりです。記念館でも販売しています。

B4変型判　4,800円